

# めだかの学校だよ

平成23年2月1日  
第71号  
学会：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL0539-62-6691

## 校長訓話

第七十一回 校長 杉谷 知也

前回、「三つ児の魂百まで」を議論しました。人が育っていくのに、生来の性質も大事ですが、育ってきた環境もとても大切なものです。参加された皆さんの意見を自分なりに深めたいと思ひ、帰りがら、では自分がどう育ってきたのだろうかと考えてみました。

小さなころ一番影響を与えられたのは祖父。当時は両親、祖母、曾祖母、弟の7人家族。両親は共働きで、農業もしていましたが、農繁期は家族と親戚と一緒に田植えや稲刈りをし、家では曾祖母の見守る中、従兄の兄ちゃんによく遊んでもらいました。

少し大きくなってからは曾祖母は寝たきりになり、祖母が介護に当たり、従兄の兄ちゃんとは遊ばなくなり、かわって祖父に仕事に、家の手伝いにといろいろなところを連れまわされました。えつりの仕事で、真竹をとり川原に行き、壁を組むために加工した竹の節取りをして100本束ねることに100円のおこずかいをもらたり、山の仕事に連れられ、木を倒すための手伝いとしてロープをくり、植林した山の下草刈り、ツル刈り、間伐した木の皮むきに、山からの運搬。米の乾燥器を購入したため、農業用小屋の横に米の籾殻を貯めるスペースをつくりを祖父と運んだ間伐材でつくる手伝いもしていました。余った木材はお風呂のマキに、マキ割りは子ども仕事でお風呂を沸かすのも子供の仕事でした。祖父は職人肌で人の世話をよくしてい

た。8人兄弟の長男として弟たちに山の仕事を教えたりしながら生きてきた。仕事が好きで酒が好きだった。一番風呂は必ずどでお酒をいただくたびに飲めるだろうとよく言われたものです。

祖母や両親にとつては怖い祖父だったかも知れない。祖父は自分の思いどおりでできないことには、ヤバを投げつけたりして、家族のいづこは全く聞かないでした。新しい農機具も好きで、相談もなく気に入ればいつの間にかコンバインや乾燥機が家に運び込まれていました。

孫に対しては、長男としての教育しなげればならないと思つていたようで、弟には何もなかったが、長男には山仕事、田植え、稲刈りなどの仕事に役割を与えていた。ただ、家事については長男にはさせることはないと思つていたらしく、後日母から家事の手伝いをやらせているのを祖父から叱られたと聞かされた。

その他には、友達と時には弟と、裏にあるため池で鮎釣りをしたり、川へ行っては魚釣りや夏は泳ぎによく行った。ちようどファミリアコンピュータが発売される前だったのが良かったのか、家の中にはあまりおらず、山の中を駆けずり昆虫を捕まえて山野草をとりに行ったり、ザリガニとりにも夢中になっていたものだ。

近所の人たちには直接怒られることはなかったが、良いことも悪いこともなぜか次の日には両親の耳に入っており、叱られたり褒められたりしていた。今の自分が作られてきた中心は、家族との関係・地域との関係が大きいのだと思ひます。家族の思い、隣近所のおじちゃん、おばちゃんたちの思い、今生きている場所

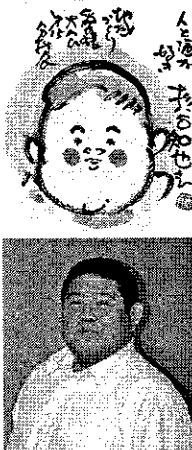
を作り続けてきた、地区の亡くなつていくすべての人を含め、それを土台にした景色や、人たちが私に世の中の見方と考える感性を与えてくれているのではないかと思ひました。

北陸を中心に使われる言葉で、浄土真宗には「土徳」という言葉があります。「大切なものを見抜くことを助ける土地の力(地域の力)である」と言われているようです。

今年、人とそれを取り巻くすべてのものの関係性を結びなおすことを考えたいと思つています。今、国はコミュニティづくりを推進しています。でも地域とは本来つくるものではなく、つくりだされてきたものだと思うから、日本人を形成してきたもの、それぞれ地域で生きている人たちの考え方が、忘れられ、画一的な教育や地域のあり方の提示により、無くなるうとしていく気がしています。地域の個性が薄れ、多様な考え方が伝えられる限界が来ているのではないかと思つています。

最後になります。青原淳信さんの言葉を紹介して終わりにしたいと思います。「土徳」という映画の中で息子さんの問いかけに対し答えられた言葉です。広島という地域の中で生きてきた方の地域への思いだと思つています。ありがとうございます。

土徳はなくなる。なくなる。じやがまだ当分ある。その地域の人の心ずーっと焼き付いとこで育つものに影響を与えるわけ。ところが、そういう人々が、だんだん死んでいく。そしたらなくなる。力もないなつてくる。影響もあたらんようになつてしまふ。じやけえ、その力が続かなかぎり少しづつでも影響を与えることができる。それが土徳。



## めだかの学校伝言板

——第71回めだかの学校を開校するので出席しなさい。  
校長／杉谷知也  
教頭／田中きみ子  
用務員／徳増兼弘  
給食係／村木謙弼・野嶋一男・伊藤宣勝・徳増兼弘  
今村純子・山中幸子・大谷香代子・杉谷知也  
本島慎一郎・本島真弓・渡辺三ツ子(チーフ)  
<学会> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山  
みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成23年3月4日(金) 6:20PMより  
受付／村田徳治・佐藤康彦・山下淳子・大場敬子  
齊藤昭(後見人)  
<時間割> 今回のテーマ  
「聞いてもらいたいちよつといい話」  
●1時間目 保健体育 本島真弓先生  
「ちよつと聞いていい話」  
●2時間目 音楽 中村明男先生  
「たのしい音戯ばなし」  
●3時間目 社会 藤野はつえ先生  
「そばから生まれたいい話」  
●給食の時間～3月3日はひな祭り～ひなご膳?  
10:15 開校

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■「三遠南信・中山間地域リーダーの育成」に挑戦

三遠南信地域社会雇用創造事業「社会的企業人材創出・インターンシップ事業」に、NPO法人雲を耕す会として「三遠南信・中山間地域リーダーの育成」という高邁なテーマを掲げて30日間の研修事業を行った。研修生12名は、60代10人、50代1人、40代1人が参加した。研修の内容は、中山間地域をより深く知ってもらうためかなりハードなスケジュールとなった。林業体験、森林観光体験、キャンプ場の整備、森の知恵暮らしと民の馳走グルメ研究、三遠南信地域文化の保存と活用、広域観光光レクリエーション拠点整備の研究等々、実学と座学を織り交ぜて多くの人と出会い、意見を交換することができた。

研修の始めの3日間は、鈴木正士メダカのところに行き林業体験で下草刈り、夜は正士メダカと研修生が打った蕎麦と研修生が揚げた天婦羅で座学「森林との共生ってなに？」からイノシシ談義。

地域文化の保存と活用では、横須賀のちっちゃな文化展見学。「ここでお世話になったのが鈴木武史メダカ。ちっちゃな文化展の苦労話などお話を伺う。」

森の知恵暮らしと民の馳走グルメ研究、三遠南信地域文化の保存と活用では、関京子メダカ。昼間は餅餅子作り、夜は「主人の「隠れ里の歴史」と後藤拓磨氏の「中央構造線の謎」のお話をお聞きした。次の日は「主人の案内で熊谷伝記の里を案内していただく。」

尾上美智子メダカの下では、延べ6日間もお世話になる。下草刈から桜植樹の準備作業なら木の伐採、搬出。座学では、所沢から木村智子メダカも駆けつけてき

てくれ、「生物多様性はなに？」をテーマにパワーポイントを使って講演をしてくれた。千葉の浦安からバイオマスの権威宮沢龍雄先生（元京大教授・龍山出身）は、「山村ビジョンの策定」の講義、山村資源の循環利用について話し合いをする。尾上さんの信濃畑コンサートも前日の準備からお手伝いをさせていただいた。

最後に、溝口久メダカ。由布院の話と久さんのキャラを研修生の皆さんに伝えたいと思い、急遽お願い。当日行ってみてびっくり、何と梅園、柿園、の剪定も。・。・。昼食は、オープンテキンの鳥の丸焼きと鍋久さんの打った蕎麦で舌鼓。座学では由布院のビデオを見て懇談。

このように出来たのもメダカ生のお陰と感謝しています。（本島慎一郎メダカ）

## ■「寺野ひよんどり」と「川名ひよんどり」

国の指定重要民俗文化財の「寺野ひよんどり」が1月3日、「川名のひよんどり」が1月4日に行われました。

浜松市北区引佐町に数百年の伝統を引き継ぐ民俗芸能で、古式ゆかしく渋川寺野地区の宝蔵寺観音堂と、川名地区の福満寺薬師堂において、地元自治会と保存会が協力して行われ、多くの地域住民が参加しました。

メダカ生では、地元伊藤八右が舞いや笛を熱演したのをはじめ、城内実、水島加寿代、鈴木一記、上嶋裕志、また元メダカの柴田宏祐、山本光男、杉山祝勇、世田新造など、多数のメダカ生も応援に駆けつけました。（鈴木計芳メダカ）

## ■第29回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会

地域づくり団体の全国研修交流会が、

5月13日（金）～15日（日）まで、「かたらんね！もえる火の国熊本で」をキャッチフレーズに、熊本県内11会場に渡って開催される。

5月13、14日は、第一分科会・熊本市「鬼嫁修行にきてはいよ！ 男衆もまけとれんばい！」、第11分科会・あまくさ島人連合協議会「島ならではの町づくりに・究極のおもてなし」など、世界遺産から限界集落マン間パワーまで、地域でがんばる人が待っている。11分科会会場で行われる。15日の日曜日は、熊本市のホテル熊本テルサで分科会の熱気を披露する全体会がある。

参加希望はこれからだが、各県の地域づくり団体協議会を通して申し込み、めだかの学校生は事務局から申し込み込むことができます。全国のおもしろ人が集まるヨ。

## ■遠州路に春の訪れを告げる「三熊野神社大祭」

遠州地方のトップを切って4月1日（金）～3日（日）「遠州横須賀 三熊野神社大祭」が行われます。江戸天下祭の流れを汲む、13台の祓里（わり山車）が狭い城下町の町並みに繰り出し、祓里の上では三社祭礼囃子（県無形文化財指定第1号/昭和30年）の名調子、太鼓や笛に合わせて、おかめ・ひよっとこ・般若が囃子に合わせて舞い踊ります。また江戸火消し装束に身をかけた若衆が「したした」のかけ声をかけながら、6メートル以上もある二輪の祓里を、右へ左へと蛇行させながら曳きまわします。2日（土）宵宮は午前10時過ぎに13台の祓里が神社境内へ勢ぞろい、「奉納祭」が行われ、3日（日）本祭には神輿に供奉して終日町なかを曳きまわされ、午後9時過ぎには再び神社へすべての祓里が揃ったの「千秋楽」が行なわれ、祭りはお開きとなります。

また毎年恒例となった、松本芳廣メダカによる「手打ちそばお休み処」も計画、桜満開、春の日の「遠州横須賀三熊野神社大祭」にお越しください。（鈴木武史メダカ）

## ■はまなこ環境交流会

浜名湖の自然環境及び浜名湖地域で環境保全活動をしている団体の「はまなこ環境交流会」を、23年3月5日（土）10時30分～16時まで、静岡文化芸術大学 南280中講義室で開催します。

10時30分自然環境データの紹介、各団体15分以内のリレートーク。13時30分講演「遠州の野鳥」北川捷康氏（静岡県渡り鳥研究会）15時30分意見交換。参加費無料。

はまなこ環境ネットワークには、めだかの学校と都田ダム湖案の花プロジェクトが加盟しています。これからは環境保全活動のネットワークを天龍川流域など県西部地域全体に広げていくことも視野にしています。事務局は山内秀彦元メダカです。

## ■開校日を前に学舎をキレイに！ 午後はいなさ湖野外ステーションの花壇の土づくりをします。

2月27日（日）午前9時から学舎の清掃をします。草刈り、枝打ち、料理場、観音塾、トイレ等。午前中が終わる予定ですが、お弁当持参でお出かけ下さい！ 午後は浜松市が堆肥50袋、肥料数袋を寄付してくれることになりましたので、野外ステーションの花壇の土づくりをします。土は西部農林事務所に入れかえてくれました。

# 「人・ひと・ヒト」だより

●浜松市の武井紀雄メダカ。今年も敬愛する坂村真民さんの詩を贈りますと。

ねがい

見えない根たちの ねがいがこもって  
あのような 美しい花となるのだ

●藤枝市の小嶋良之メダカ。昨年4月に結婚したんだって。おめでどう！。奥さまの名前は恵美さん。昨年の多くの実感から2011年の言葉は、遠藤俊夫さんの『まわりの人』に。

人を立て 人を生かし 人を先にすれば  
自らもまた 人から立てられ 人から生かされ 人から先にされる  
自分一人の力なんて まことに弱く  
まことに貧しい

まわりの人々の 協力のすばらしさ  
その力の大きさ その力を惜りなければ  
なにもできやしない

周まわりの人を大切にしていこう

●静岡市の鈴木芳徳メダカ。静岡市の科学館ではじめて企画展を担当して、正月抜きで恐竜漬けになっていました。……と言いつつ、結婚しました。季節やできごとを、2人で楽しく見つめています。だって、奥さまの名前は義子さん。おめでどう！。

●愛知県東栄町の森下幸子メダカ。大正元年98歳の母が、「歩行器」の助けを借りながらも私の仕事の手助けをしてくれる、と母はただただ感謝の「ありがとう」と「お世話を掛けます」と、労わりの「苦勞様」「お疲れ様」の言葉に満ちています。見習わたくし思います。と、まさに私も……。

●仙台市の民族歌舞団ほうねん座。今年創立四十七周年を迎えます。と、平成13年12月9日に、「21世紀最初の年、元氣印で年越ししようよ」と、特別教室、ほうねん座『お祭りキラパン公演』を企画。大いに盛

り上がりしました。今もお便りくれます。又やりたいね！。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。いよいよ60歳！、生まれ変わって頑張ります。生まれ変わることはできないヨ！。(笑)。今も「姫街道や浜松市北部地域に遺る「寺野のひよんどり」や「川名のひよんどり」、徳山の「おくない」など、民族芸能の情報発信に力を注いでいる。想いを周囲と協働しながら進めている。

●浜松市細江町の松田不秋メダカ。皆様の温かい支えの有難さが身にしみ一人暮らし三年目、三遠南信に脱兎の構えを心がけつつ幾らかなりとも恩義に報いられればと念じています。と。

●浜松市の加茂光廣メダカ。所沢市の木村智子メダカの実家、浜松市富塚町にある柴田芳明メダカ亡きあとの「フラワースター若草」を、智子メダカと妹さんや知人らが中心となって「カフェ」「コミニティスペース」として、4月から準備しているのでお手伝いしたい、と。

●宮城県気仙沼市の牡蠣の養殖場主で牡蠣の森を募う会代表の島山重篤さん。昨年のチリ津波被害から、なんとか復興させ、カキ、ホタテもスクスク育っている。早春、「鉄は魔法つかい」の本を出版する、と。

●取手市の摘み草クッキング主宰の篠原準八メダカ。昨年は群馬県草津町でつみくさサミット開催。今年は、日本つみくさの会が念願の「特定非営利法人日本つみくさ研究会」に変身して新しい活動を開始すると。「めだかの学校」の基盤だった学舎「つみくさ」から生まれていったものです。めだかの学校恩人のひとりです。感謝。

●東京都中野区のかまちよしろうメダカ。今まで地方新聞でしか読めなかった「ゴンちゃん」がスマートフォンで携帯電話で読めるようになりました。d.o.c.o.m.oのアド

ンドロイド端末からは、アンドロイドマーケットにアクセスし、検索窓から「ゴンちゃん」で検索だ。

●浜松市の池田誠二郎メダカ。昨年は二度の大手術とリハビリ・妻とともに過ごした七ヶ月のながい休職も、いまふり返れば楽しく意義深い思い出と！。池田メダカが持つ知識はとてつもなく大きなもの。くれぐれもお身体にはご自愛くださいヨ。めだかも豊岡東公民館も待っていますヨ。

●愛知県長久手町の横田浩臣メダカ。一昨年ウズベキスタンの首都の、歴史博物館で見た仏像。仏教はインドから中央アジア・中国・朝鮮を経て日本へ伝わり、その途中でガンダーラ美術と融合して仏像が生まれたとか。それを造った文明はすでに滅んでいる。攻防が激しかった中央アジアの出来事。急速な欧米化によって日本文化は……そんなことを考える今日この頃だ。

●森町の村松達雄メダカ。12月に故郷の偉人「鈴木藤三郎」の本を共同出版。明治の先人たちの苦勞を知り、彼らが今の世代のために時代を切り開いていったように、われわれも次の世代へ未来を築かなければならないと思つた、と。出版のことが、静岡新聞にも掲載されました。

●北海道滝川市の水口正之さん。2008年10月、足助でお会いして以来ごぶさたしていません。北海道で「めだかの学校」開校して下さい。めだかの学校、行きたいです！。たくさんの顔写真と共に。来年の20周年にはぜひお出掛けを！。

事務局には、心のこもったたくさんの年賀状が届いています。その中から少しだけ紹介させていただきます。省略・加筆お赦しを！。

●「新入生紹介」(12月から入校)  
●浜松市の山下淳子メダカ。人つきあいや

コミュニケーションが苦手。これを機に克服したい。銅版画の制作、鉛筆による素描スケッチ等、少人数の教室を持ちたい、と。  
●静岡市の西島朋子メダカ。知らない土地で新しい文化、おいしいものに出会える旅をしたい、だって。料理、園芸が大好き。伊藤英雄メダカのオイモさん大好き。とにかく色々な人と出会いたい、と。  
※紙面の関係で今回はこれまで。

## 『めだかの学校雑感』

百年経つてもどこからも表彰されることのないめだかの学校？

笑いながらある人が言いました。「めだかの学校は、百年経つてもどこからも表彰されることはないな。いい・加減で掴みどころがない。そこが魅力」だって。無理もないか、言い出しつぺの私すら、「めだかの学校って、どんな学校ですか」と聞かれても、「変な人の集まりです。良く言えば個性豊かな……でも学校だから、校長先生もいるし、授業もあるし、給食の時間もあるしと答えているが、めだかの学校には、しっかりととした基本理念の『建学の精神』(こころ)がある。

その「めだかの学校」も、来年の9月には20年になる。15周年の時は、浜松市引佐町奥山の方広寺で「めだかの学校」大学院』を開校したが、20周年はどんなことをするのか、今から実行委員会を作つて色々企画検討したい、と思つています。実行委員を引き受けていただける生徒は、3月末までに事務局までご連絡下さい。

●お願い！  
「めだかの学校だより」の第1号から第10号までをお持ちの方、お貸しください。「めだかの便り」の「記念特集号」をまとめたと思いますので、ぜひご協力ください。(事務局・梶原幸雄)

# トピックス

## ■農業者と消費者の楽しかった研修交流会

磐田市の豊岡地区は「農のある風景」がびっぴりのところ。1月27日磐田市敷地の豊岡東公民館で、とよおか農研21流通部会の農産生産者と消費者との研修交流会が行われた。農産生産者は、地元特産の海老芋やネギ、チンゲンサイ、ホウレンソウ、サツマイモ、メロン、イチゴ、ミカンなどを持ち寄り、その食材を使って消費者の女性たちが工夫をこらした料理を作った。農業者には伊藤英雄、深澤明男、鈴木正士メダカから、消費者のリーダーは今村純子メダカ。今村メダカのお献立と料理は、旬の味をじっくり出して最高。まさに地産地消を地でいくもの。デザートは鈴木正士メダカの手打ちそば。もちろん館長の榎原メダカもお相伴に預かりました。ここに市川祐一メダカがいなかったのは淋しかったが、「きつと天国から見ている」だった。

## ■放置竹林を何とかしたいとがんばる「おじいちゃんパワー」

浜松市の野嶋一男メダカ。2月8日付静岡新聞朝刊の「この人」欄に掲載される。浜松竹資源利活用ネットワーク研究会の会長。竹林整備のボランティア団体を主宰し、市内の幼稚園や小学校を訪れ、竹を使った遊び方を教えている。と。会のメンバーは70代が中心。「おじいちゃんパワーは凄いなア」

## ■事務局だより

2月4日立春。どこからか「鬼は外、福は内」の豆まきの声が聞こえてきます。わが家は「鬼は内、福は内」。鬼さんも福さんも一緒にどうぞです。

テレビからは、新燃岳の火山噴火、鳥インフルエンザ、北陸地方の大雪。日本の政治の世界はどこか間が抜け、今度は大相撲の八百長報道。タイガーマスクの伊達直人やサッカーアジアカップ優勝の暖かなニュースはどこかへとんで行ってしまった。でも暖かな春はもうすぐそこ。我慢してこそ良きことあり！と。

さて、第70回のめだかの学校は、12月3日、校長大谷香代子、教頭鈴木計芳、用務員伊藤宣勝。冒頭10月31日に亡くなられた市川祐一メダカのお慰霊。新入生は山下淳子と西島明子の元氣印の2女性。70回は回の区切りでもあるので全員参加型の特別授業に。『今の世の中だいがおかしくない？。子が親を殺し、親が子を殺す。遊ぶ金欲しさに強盗し、あいつも満足にできないし、感謝の表わし方もしらない。これって、私たちにも責任あるよなア。』と、テーマを『三つ子の魂百まで』と決める。4班に別れて食事をしながら話し合うことに。1班は今村純子、2班は鈴木祐之、3班は村松達雄、4班は鈴木真弓。参加人数が多かったので5班に奥宮教生5人を進行役に討論。テーマがテーマだけに結論がでるものでもなく、それぞれが自分の感じていることを出しあった。『じゃあ、あなたはどつなんだ』と、問われたとき、『うん』が本当のところかも知れない。数日後、あるメダカ生から手紙をいただいた。「あれでは通年テーマの『深める 深まる 深化する』にはならないじゃないか、三つ子の魂の…児は子が

正しい。白板にイタズラ心で兎にしたら分かった人がいた。真刻にテーマとぶつかった人がいて嬉しい限りだった。給食はマコモダケのサラダに、鈴木一記メダカ寄贈の久留女木の榎田米。オマケにジャンケンで2人にプレゼントまで。12月にはこの他に和歌山県の真砂典明メダカの木彫りのエトモ。次回71回の3役は、校長杉谷知也、教頭田中みき子、用務員徳増兼弘。校長は三重県、教頭は愛知県ということもあり、用務員はベテランの徳増兼弘さんに敢えて指名した。

第71回のめだかの学校の職員会議を、1月14日(金)、磐田市の元氣村「味里」で開く。新年でもあることから、桜もちとうぐいすもちの差し入れをしていただきたい。三重県から杉谷知也校長出席。教頭先生は欠席。用務員の徳増兼弘さんは出席。70回の時は、悪い話がいっぱいだったが、巷はタイガーマスクの伊達直人さんヒーロー。『日本人もまんざらでもないね！』とばかりに、テーマも『ちよつとい話』に。いつもの如く、ああでもない、こうでもない…と、一時間目保健体育「ちよつと聞いていい話」本島真弓先生。天竜厚生会現職の時のちよつとい話を！。二時間目音楽「たのしい音戯ばなし」中村明男先生、音の世界の楽しいお話を！。三時間目は社会「そばから生まれたいい話」藤野はつえ先生。手打ちそば処ふじ花。そば屋さんに来るお客さんとの交流の中でのいい話を！。に決まる。

今回は珍しく決まり方も早かった。元氣村「味里」の金原志郎メダカに少しだけの迷惑で済んだ。感謝。

■あのみ、ごめん、お詫びとお礼と…  
今回はちよつと早く出稿することができそう。でもなア…発送してみないことに

は分からないよなア…。と言いつつ、お待ちたせの伊藤英雄さん、鈴木武史さん、本島慎一郎さん、石野省三さん、最後の締めの間瀬亮太さん、よろしく！感謝、感謝です。一番感謝しなければならぬのは榎原明美さんでした。ハイ。

## ■第18期の受け付けをしています

第18期は22年9月1日から23年8月31日までです。随時申込みを受け付けていますが、まだ継続手続きをしていない生徒は、名簿からはずれ自主退学となりました。入学希望者がありましたらご連絡ください。申込者と資料を送ります。

## ■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行日は平成23年5月1日、原稿の締切りは4月20日です。あなたの活動予定やイベント、活動実践など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@y. tnc. ne. jp》

間瀬亮太0990・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので「報き」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田52  
9番地20 榎原幸雄方 TEL053  
9・62・6691 (FAX同じ)

※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。携帯080・1612・9130

